



白鳥の湖 第4幕

五、歌舞伎公演

○期日 十月三十一日(金)

(昼の部 一一・三〇)
(夜の部 一六・三〇)

○会場 いわき市市民会館

○公演団体 松竹株式会社

○出演者 中村 扇治郎

中村 扇雀

澤村 田之助

片岡 我当ほか

○演目

(1) 神霊矢口渡

御目見得口上

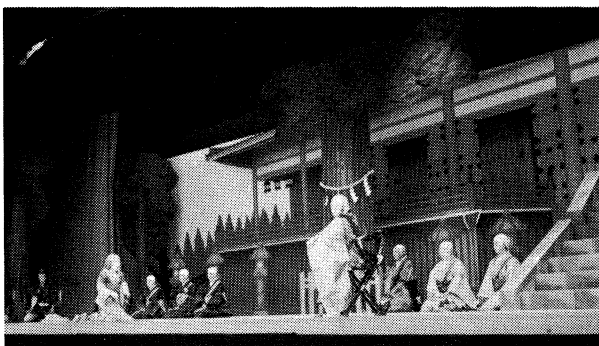
(2) 二月堂良弁杉由来

英執着獅子

○入場者数 昼夜約二千百名

○感想

本年度の歌舞伎の地方巡回は、北陸、関西及び九州地方となっていたのであったが、本県は移動芸術祭の集中県であり、また、いわき市文化センターが本年五月にオープンしたので、こけら落しの意味を含めて、特に北海道・東北地方では唯一の公演となったものである。出演者も芸術院会員中村扇治郎をはじめ、その息子である中村扇雀、そして澤村田之助、片岡我当といった松竹歌舞伎最高の豪華メンバーを、そっくりいわき市に移しての公演であった。これだけの役者が、東北地方で公演したのは本当に珍しいことと言える。



良弁杉由来の扇治郎と扇雀

中でも、「良弁杉由来」は、母子再会の物語だが、不思議なことにこれまで親子で演じられたケースは、ほとんどなかったとのことである。それが今回は、父の扇治郎が母親役で渚の方に、息子の扇雀が良弁大僧正にふんし、母子再会のクライマックスの場面では、涙を流す観客がたくさん見受けられた。そのほか、「英執着獅子」では、宝暦年間の初演そのままの、二百年以上前の優雅さをこれまた当たり役の扇雀が、歌舞伎舞踊の美の極致を演じ、観客からため息が何度となくもれていた。今回は昼・夜二回の公演であったが、